



# 殉難百年

# 駆逐艦春雨記念祭

相差町内会 ㊟21 6 6 6 0

## 供養祭と記念イベント

## 嵐の中の救出活動

明治44年に相差町の菅崎沖で、旧海軍の駆逐艦「春雨」が座礁する事故が発生しました。この事故では乗組員44人が亡くなる大惨事となりましたが、事故を知った町民が総出で生存者の救出にあたり、多くの命が救われました。

殉難者の供養と先人の勇氣ある行動を後世に伝えたいという願いから、殉難100年目の供養祭と記念イベントが11月24日(木)に開催されます。

明治44年11月23日、駆逐艦「春雨」は神奈川県横須賀港から長崎県の佐世保港へ向けて航行中でした。夕方、志摩沖に差し掛かったときに大しけに遭遇してしまい、春雨は矢湾に避難することになりましたが、その途中で菅崎海岸の暗礁に乗り上げてしまいました。

翌日の早朝、まだ薄暗い中を浜に向かっていた町民が、座礁した春雨から助けを求め

るために泳いできた瀕死の少年兵を発見し、春雨の遭難を知ることとなりました。

すぐに相差青年会の若手から27人の特別救助隊が編成され、救助船明德丸に乗り込み、救助に向かいました。荒波の中、隊員は必死に艦を漕ぎ、春雨の手前50メートルのところまで接近しましたが、そこから先は波のうねりが大きく危険なため近づくことができ

ませんでした。救助隊の隊長は苦渋の決断を迫られました

が、泳いで春雨まで向かう隊員3名が名乗りを上げました。決死の覚悟で荒れ狂う海を泳ぎ、沈みゆく春雨にたどり着いた3名は、煙突の上で助けを待つ水兵を助け出そうとしましたが、大波が襲いかけり水兵の体が海中へとさら

われました。絶望的な状況の中、明德丸から海に飛び込む一人の隊員と、浜からも一人の女性が荒波に身を投じました。同時に救助に向かったこの二人はくしくも兄妹であり、人々が見守るなか、先にとどり着いた兄が水兵の体を抱き留め、救出しました。

その姿に、浜の人々は沸き上がり、その後も町民総出の懸命な救助により8名の命を救いました。

## 殉難百年記念イベントスケジュール

- とき** 11月24日(木)  
午後1時30分～3時45分ころ
- ところ** 長岡中学校体育館
- 内容**
  - 神明くじら太鼓 (約15分)
  - 歌手 鳳城朋美さん 歌謡ショー(約30分)  
「春雨」を追想した歌「さらば星になれ」も披露されます。
  - 演劇 (約70分)  
「『春雨』救助伝～闇の怒涛から～」と題した演劇を周辺地区のかた35名(保育所児童1名、小学生8名、中学生2名など)が演じます。

入場は無料です。みなさま、ぜひご来場ください。  
※午前9時30分から菅崎園地で行われる供養祭は関係者で行われます。



菅崎園地からみた「春雨」が座礁した海域。岩礁の上に石碑が建てられています



とことは(常永久)の鐘。自然への畏怖の念と慰霊の心、世界平和を伝えたいとの願いを込めた癒しの鐘です



菅崎園地に立つ「春雨艦殉難の碑」。昭和12年に志摩郡在郷軍人聯合会によって設置されました